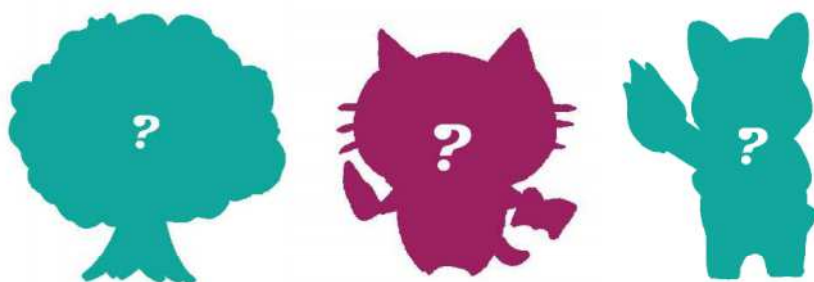


図書館のマスコットキャラクターが仲間入りしました

次号で詳しく
ご紹介します。



各種SNSやってます

Twitter (@LibeUOK)

Instagram (@libe2020kochi)

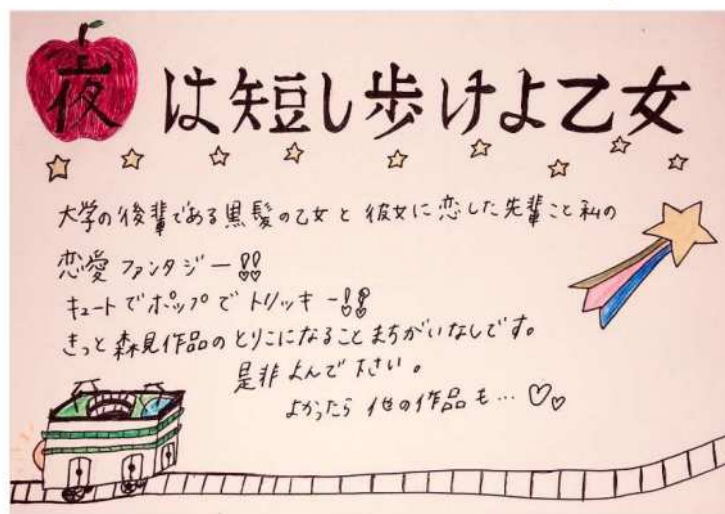
引き続き、図書館サークルLibeの情報を発信しております。

是非フォローよろしくお願ひいたします。

サークル見学や入会のお問い合わせはダイレクトメッセージでも受け付けております！お気軽にお問い合わせ

図書館サークルLibeが過去に展示した本からおすすめをご紹介します

森見登美彦 『夜は短し歩けよ乙女』 (200永国寺M2 - 集密南1に所蔵)



裏面・本紹介の続き

齋藤孝 『語彙力こそが
教養である』 (2015)

永国寺2F - 県大学生選書
コーナーに所蔵



文化学部必読の一冊

普段からつい「やばい」「すごい」「わかる」「まじで」といったような言葉ばかり使ってしまうことはありませんか？

語彙力とは、会話の表現力、説明力に直接かかわってくるものであり、そのひとの印象を形作る要素のひとつです。

この本では、普段から実践できる「語彙力トレーニング」がわかりやすく説明されています。慣用句や漢熟語を正しく使いこなしている、言い回しがいつも素敵、文章のリズムがあって面白くて飽きないというように、幅広い語彙力を身に着けている人はそれだけで一目置いてしまいます。日常生活のなかに小説、詩、エッセイ、伝記、歌、ドラマ、映画を取り入れて、一緒に知性を感じられる人を目指しませんか？

アラン・シリトー
『長距離走者の孤独』 (1959)

池 - 文庫に所蔵



「怒れる若者」の爽快な短編

主人公である17歳の青年スミスは、友人のマイクとパン屋に忍び込んで金を盗みますが、犯行が露見し、警察がやってきて感化院に送られます。しかしそこで走ることへの才能を見込まれたスミスは、全英長距離クロスカントリー競技の大会に感化院の代表選手として出場することになります。もしも入賞すれば感化院への社会的な評価も上がるということで院長からの期待も厚く、スミスは日々ストイックにトレーニングを続けます。そして大会の当日、独走状態の1位でゴールする直前に、スミスは感化院の大人や周囲への反抗として、ある突飛な行動に出るのでした……。